

# 崩れた「オール静岡」

## 苦肉の策「自民隠し」通用せず

### 選挙証 検証 2024

下

### 大村氏陣営

「浜松市議を処分すべきだ」。知事選から一夜明けた27日、県議会最大会派自民改革会議の議員総会で浜松市のベテラン県議が声を荒らげた。同市では元副知事大村慎一氏(60)を推薦する自民党の方針に反し、一部市議が元浜松市長鈴木康

友氏(66)を公然と支援した。大村氏は同市で14万票の大差を付けられ敗北。選挙戦が終わってもなお火種がくすぶる。

国会議員の裏金事件や女性問題といった不祥事が相次いだ自民。逆風をしのぐための苦肉の策が、党本部からの応援を極力控える「自民隠し」だった。地元選出の上川陽子外相(衆院静岡1区)を除き、閣僚や党幹部らは水面下で業界団体に支持を呼びかける「ステルス作戦」に徹した。戦術は有権者に見透かされ、党所属の衆院議員が不在と

なり組織が弱体化した静岡3区、8区は最後まで差を縮められず惨敗した。

選挙戦では内部であつれきも生じた。告示後初の週末には「ポスト岸田」候補の一人とされる現役閣僚の県内入りが直前でキャンセルになった。「大物は呼ばないと決めたはず。スタンドプレーだ」。県連幹部は計画した関係者を強い口調で批判した。

政党内を薄めるのに不可欠だった県内首長。告示前から大村氏への支持表明が相次ぎ、全35市町の半数を超えた。その裏にあったの

は自民県連による働きかけだ。陣営関係者が「応援しなかつた首長は選挙で思い知らせる」とこぼすように、事実上の「踏み絵」を迫った。大村氏猛追の情勢が伝えられる中で迎えた投開票日。陣営の会場に姿を見せた首長はわずか1人だった。超短期決戦で急造した「オール静岡」はもろくも崩れ去った。

「お疲れさまでした」。投開票翌日の27日朝、県連幹部に岸田文雄首相から電話が入った。「衆院3補選に続く敗北」「政権運営に打撃」と報じられる中、淡

別の幹部は「裏金問題を長引かせた党本部の責任は大きい。岸田さんは選挙の顔にならない」といらだちを隠さなかつた。

政敵の川勝平太前知事が退場したにもかかわらず、知事選で実質3連敗となつた自民。多くの船頭で大村氏を振り付けし「1年以内に結果を出す」としたりニア対応は岐阜県の水枯れ問題で修正を余儀なくされた。川勝県政を一定程度評価する県民世論を読み違ひ、批判も中盤からトーンダウンせざるを得なかつた。

衆院静岡3区、8区支部長の後任選びや知事選を巡る関係者の処分など課題も山積みで、党勢の立て直しはいばらの道だ。ある県議は知事選敗北直後に民主党政権が誕生した2009年当時と雰囲気似ているとつぶやき、こう続けた。「とつともない逆風だ。衆院選は相当厳しい戦いを覚悟しないとイケない」

(知事選取材班)



知事選で敗戦が決まり、陣営のねぎらいを受ける大村慎一氏(右端)＝26日夜、静岡市葵区